

研修会報告

開催日時：2012年2月10日

16:00～17:00 心肺運動負荷試験実技講習

17:00～18:00 特別講演「循環器疾患の理学療法に必要な評価」

講師：群馬県立心臓血管センター 循環器内科医師 安達仁先生

1) 心肺運動負荷試験実技講習会

運動が動脈硬化の危険因子を軽減し、冠動脈疾患の発症や再発を予防し、肝動脈疾患による死亡率を減少させることが多くの研究で明らかになっている。心疾患患者に対し、運動を安全かつ効果的に実施するには、病歴や身体所見など共に、心肺運動負荷試験により適切な運動処方を行うことが推奨されている。

本講習では、外来心臓リハビリテーション通院中の虚血性心疾患症例への心肺運動負荷試験を用いた運動負荷の方法・測定データの解析方法・運動処方について実技指導をいただいた。臨床に生かせるアドバイスを多くいただき、これからの心肺運動負荷試験の質の向上に大変参考になる講習会であった。



臨床検査技師による心電図確認



データ解析方法の指導

2) 特別講演「循環器疾患の理学療法に必要な評価」

理学療法士・作業療法士を対象とし、心不全の基本的な知識から、臨床ですぐに活用できる評価方法等、多くのことを分かりやすくご講演いただいた。多くの情報を駆使して患者の状態を評価し、いかにしたら病態を増悪させずに心臓リハビリテーションを実施できるかを考えて診療を進めていくこの必要性を再認識した。

【受講者の感想】

日々の診療で、患者さんにどうやったら元気になってもらえるか、理学療法士として何ができるのかについて悩むことが多いが、安達先生の講演を聞き、多くのヒントを頂いた。まずは患者さんの状態を的確に評価することが何よりも大事であると感じた。それができて初めて、安全かつ効果的な運動負荷量を判断できると考えられる。

そのためには、検査データ等、多くの情報を駆使する必要があるため、必要な知識を勉強することも必要であると感じた。自身で勉強するほかにも、勉強会等に積極的に参加していきたいと考えている。

一人一人の患者さんを丁寧に評価することから始め、自身のスキルアップにつなげ、チーム医療における理学療法士として十分な働きができるようになりたいと強く思った。